



東京歯科大学広報



新入生を代表して「宣誓」する済川志麻さん：平成25年4月5日（金）千葉校舎講堂

平成25年度東京歯科大学入学式

平成25年度東京歯科大学入学式が、平成25年4月5日（金）午後1時より、千葉校舎講堂において行われた。

式には、金子 譲理事長、井出吉信学長をはじめ法人役員、大学役職者、教職員、父兄会役員及び同窓会役員、新入生保護者が出席して挙行された。



2013年4・5月
260号

本号の主な内容

- ・平成25年度東京歯科大学入学式 1
- ・訃報 長谷川正康名誉教授ご逝去 8
- ・平成25年度大学院歯学研究科入学式 15
- ・直井友紀さん（3年）うつのみや市民賞を受賞 17
- ・浅倉恵子元市川総合病院副看護部長 瑞宝単光章受章 20
- ・平成25年度歯科衛生士専門学校入学式 22

式は佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、本学管弦学部・混声合唱部の現役部員及びOBにより、校歌の演奏と合唱をした後、河田英司教務部長が新入生128名と第2学年の編入学生9名を一人ずつ呼名して紹介が行われた。

次いで井出学長から訓辞、金子理事長から祝辞

が述べられ、新入生代表の済川志麻さんが清々しい宣誓を行い、新入生代表の宮崎創太君に徽章が手渡された。宮崎君はスーツ左襟に徽章を着装して、会場の新入生、保護者、教職員に披露した。最後は出席者全員で校歌を斉唱し、滞りなく入学式を終了した。



訓辞を述べる井出学長：平成25年4月5日（金）、千葉校舎講堂



祝辞を述べる金子理事長：平成25年4月5日（金）、千葉校舎講堂



徽章を授与され披露する新入生代表宮崎創太君：平成25年4月5日（金）、千葉校舎講堂



楽譜を見ながら初めて校歌を斉唱する新入生：平成25年4月5日（金）、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学
学 長 井出 吉信

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東京歯科大学は皆さんを心から歓迎し、お祝いを申し上げます。また、保護者の皆様の方ならぬお慶びを拝察いたし、重ねてお祝いを申し上げます。

本学の教育の特色は、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性、国際性を身につけ、人間の優れた、良識豊かな、歯科医療人を育成していることにあります。

そして、本学の確かな教育力は、歯科医師国家試験での高い合格率に示されており、この2月に実施された、第106回歯科医師国家試験結果では、昨年に続き、2年連続で全国29歯科大学・歯学部のトップという、輝かしい結果となりました。

創立以来、120年を有に超えた本学は、これまでに培った確かな実績のもとに、最先端の教育・研究・診療を行い、常にわが国の歯科医学・歯科医療を牽引しながら、新しい知識と技術を学生に教育し、最新の医療を提供することで、国民から信頼される歯科医学教育機関として、社会的使命を实践していると考えております。

皆さんが本日初めて歌う本学の校歌は、1927年（昭和2年）に、北原白秋氏が作詞、山田耕筰氏が作曲されたもので、それは本学の前身、東京歯科医学専門学校時代であります。校歌の4番の歌詞に、「水道橋畔 日は照りわたれり」とありますが、校舎が現在の水道橋校舎の場所にありました。

本年は、そのゆかりの地である水道橋にメインキャンパスを再度移転し、本学の新たなスタートの年、まさに飛躍の年となります。8月に竣工記念式典、9月には水道橋校舎新館での授業が始まります。

水道橋への移転を機に、他大学・研究機関との共同研究をより積極的に行い、学内における最先端のプロジェクト研究をさらに強化させ、常に最新の歯科医学・歯科医療を取り入れていきたいと思っております。昨年11月には、本学とゆかりの深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を締結しました。今後は、教育・研究・臨床において相互に交流を深め、連携し、学術活動を推進していく予定であります。

皆さんにとって、これから始まる6年間は、人生の中で最も華やかで大切な時です。水道橋を学びの拠点として、是非充実した学生生活を過ごしていただきたいと思っております。

私たち教職員は一丸となって、皆さんを単なる歯科医師ではなく、日本あるいは世界をリードする歯科医師に育て上げることを約束します。是非皆さんはそれに応えていただき、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いして、訓辞といたします。

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

新入生の皆さん、おめでとうございます。また保護者の皆さまもお慶びのことと思っております。

東京歯科大学はどのような大学か、また皆さんをどのように育てたいのかという話をしたいと思っております。

既に大学生を経験している編入学の皆さん以外は、受験の時にはまだ「大学とは何か」などと考えていなかったと思っております。歯科大学には教育、研究、診療という役割があります。また、一般に大学教育には「知識の伝達」、「創造性を養う」、という主に2つの目的があります。「知識の伝達」とは一生懸命勉強して知識を蓄積させることです。大学では主に講義という形で行いますが、これだけが教育ではありません。新しい知や物を生み出す力、つまり創造力を皆さんに養ってもらうことが大学の非常に大きな役割です。それは今までの人間の歴史を見れば分かりますが、既にあることを学ぶだけでは進歩、進展はありません。新しい知や物を作り上げるという積み重ねで今日の発展があるのです。

東京歯科大学は今年で創立123年という長い歴史をもつ大学です。高山紀齋先生が設立した本学の前身である高山歯科医学院が出発したのは1890年です。高山歯科医学院は血脇守之助先生という次の後継者により、非常に大きく発展を遂げ、また血脇先生が中心となって歯科医学・歯科医療を日本の中に根付かせました。東京歯科大学は新しいことを創造し、そして継続させてきたということが大きな特徴だと思います。皆さんの大学生活は医療人としての役割を身につけるための準備期間ですが、皆さんには自分の使命、義務、責任をしっかり感じて開拓の心を持って6年間を過ごしていただきたいと思っております。また継続のためには、次の人材を育てることが大切で、これが東京歯科大学の1つの伝統だと思います。この伝統の中の一員である皆さんに、私たちは大変大きな期待をしています。この大学で学生生活を満喫してください。東京歯科大学は勉学が非常に厳しい大学ですが、大学は園(その)でもあります。勉学のみならず、皆さんが友人、先輩、後輩、また教職員も含めて、人との関わりの中で、競争し、またお互いを思いやる心を養う場でもあります。これから自己を確立していく大切な時期です。この大学の教育のための施設ははじめ様々なものを大いに活用して学生生活を送ってほしいと思っております。基本は人間力、つまり人間としてのあり方です。それが多くの人と一緒に過ごす中で育てられるということが大学の価値です。クラブ活動や課外活動などを通して、色々な意味で人

間性を広げるための体験をすることが非常に大事なことです。「歯科医師である前に人間であれ」という東京歯科大学の教育指針である言葉からもわかるように、血脇先生が一番望んでいたことは皆さんに紳士・淑女であってもらいたいということだと思います。一度始めたことは止めずに、とにかく一生懸命やると展開が開けてくる、そして興味深くなってくると思います。その間に良い友達ができ、信頼が芽生えてきます。友達は一生の宝です。

皆さんは生涯勉強を継続する職業に就くために東京歯科大学に入学したのですから、とにかく勉強です。勉強を好きになるためには勉強を一生懸命やる他にありません。物事の理屈を良く理解するために時間を使うということが早道であるとは私は思っています。それが楽しいということはこの6年間で身につけていただければ、勉強が当たり前となり、その後大いに成長が見込まれます。それは皆さんの先輩が行ってきたことで、社会で活躍されている方はそういう方々です。学長による東京歯科大学の教育方針を信頼し、懸命になって6年間を過ごしていただきたいと思います。その結果、自信を持って、大学を出て行けるはずですよ。6年間大いに楽しんでください。期待しております。東京歯科大学は次の世代を担う皆さんを大事に育てたいと思っております。

本日はおめでとうございます。以上をもって祝辞といたします。

宣 誓

新入生代表

済川 志麻

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

水道橋キャンパスニュース

■水道橋新館校舎（仮称）建設工事現況（平成25年5月8日現在）



2・3階 血脇記念ホール



4階 図書館



7階 実習講義室



11階 大教室



11階 大教室前バルコニー



内部階段

■講座主任教授就任のご挨拶



歯科保存学講座

古澤 成博

この度、教授会の御推挙により、平成25年4月1日付で東京歯科大学歯科保存学講座主任教授を拝命いたしました。言うまでもなく本学歯科保存学講座は、関根永滋先生、浅井康宏先生と偉大な先生方に歴代受け継がれ、本学の中でも非常に歴史と伝統のある講座であります。若輩者の私はその講座の責任者を継承させていただきますことは、誠にその大変な重責に身の引き締まる思いであります。思えば昭和58年4月に歯科保存学第一講座に入局以来、恩師浅井康宏先生をはじめ諸先輩方から数多くのことを教えていただきました。今後はこれらの経験をもとに、講座のさらなる発展と東京歯科大学の発展のために励んでまいりたいと決意を新たにいたしております。大学における使命は、教育、診療、研究の3つの柱であります、

近年各分野ともに「広く深く」追究することが求められており、これらの仕事を全ての面で効率的にこなすことは、なかなか難しい状況にあります。そこで、今回初の試みとして、研究と教育の二つの分野をサポートして頂くべく、本学病理学講座ご出身の村松 敬先生に当講座の教授として新たに赴任していただくことになりました。もともと当講座では臨床病理学的研究や実験病理学的研究を行ってきた歴史もあり、今後は2人で力を合わせて効率的に仕事を進め、新しい講座の研究、教育体制を作り上げてまいりたいと考えております。

また、今年は大学の水道橋移転という一大プロジェクトが実現する年でもあります。新たにスタートを切る水道橋における学生教育を充実させるとともに、水道橋と千葉の両病院の診療につきましても、レベルを高く保ちつつ医療収入に直結する効率的な診療を行う必要性を痛感いたしております。今後は若手の医局員教育も含めて、新しい歯科保存学講座のあり方を模索しつつ日々努力する所存です。

微力ではございますが、東京歯科大学の発展のために少しでもお役に立てるよう努力することを誓いまして、主任教授就任の御挨拶とさせていただきます。今後ともより一層の御指導、御鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

■研究室主任教授就任のご挨拶



社会歯科学研究室

平田 創一郎

このたび教授会よりご推挙賜り、平成25年4月1日付をもちまして教授に昇任し、社会歯科学研究室主任を拝命いたしました。当研究室は、我が国の社会歯科学の礎であり、ここで教鞭を執り研究に従事することは、この上なく光栄なことでございます。このような大役を仰せつかるには、まことに微力ではございますが、先代の石井拓男教授をはじめ教授の先生方、教職員、本学同窓の皆様方のご助言、ご協力をあおぎ、教育・研究に邁

進してゆく所存でございます。

さて、私は大阪大学歯学部を卒業後、構音障害・摂食嚥下障害の臨床と研究を行っておりました。その後、厚生労働省に入省し、医政局歯科保健課にて歯科医師臨床研修必修化の体制整備、同総務課医療安全推進室にて医療安全管理の体制整備、同経済課にて歯科関係の医薬品・医療機器の保険収載の業務に携わって参りました。これら厚生労働行政の一端を担う中、教育を志し、平成18年4月より当研究室に赴任し現在に至ります。

医科歯科連携、在宅歯科医療といった医療を取り巻く社会体制が大きく変化しつつある現在、社会歯科学の領域はますます必要性が高まってきております。いわゆる口腔機能リハビリテーションの臨床経験と、中央行政での執務経験を生かし、学部教育と後進の育成に努めて参りたいと存じます。

歴史と伝統ある東京歯科大学の名に恥じぬよう、努力を重ねてまいりますことを誓いまして、教授就任の挨拶とさせていただきます。

■教授就任のご挨拶**歯科保存学講座**

村 松 敬

この度、教授会のご推挙により、平成25年4月1日付をもちまして、本学歯科保存学講座の教授に就任いたしました。伝統ある講座の教授を拝命し、大変光栄であるとともに、本学・当講座の新たな伝統を作るという責務に身の引き締まる思いであります。

私は平成3年に本学を卒業後、病理学講座の大学院を経て、同講座にて下野正基教授のご指導のもと教育、研究、診断に従事してきました。平成8年には市川総合病院臨床検査科病理、平成11年にはハーバード大学歯学部にて診断、研究を行う機会をいただきました。その後、平成23年には本学臨床検査病理学講座への異動を経て、鶴見大

学歯学部病理学講座に勤務いたしました。

この間、研究面では象牙質・歯髄複合体の細胞間結合装置やダメージ回避機構を中心に行い、日常歯科臨床において加わる刺激に対する歯髄の反応についてエビデンスを出してきました。また鶴見大学歯学部では斎藤一郎教授のご指導のもと歯髄細胞の研究をさせていただく機会をいただきました。近年の歯髄研究は幹細胞研究が主流となっており、IADRなどの国際学会において歯髄生物学グループの多くは歯髄幹細胞研究を行っております。一般的に間葉系幹細胞は骨髄から採取することが多いのですが、侵襲が比較的少なく採取できる歯髄から幹細胞を採取し、再生医療や難病発症機構の解明に用いることができれば歯科からの社会貢献は非常に大きなものとなります。これを実践できるような研究を行い、さらには研究結果を臨床面や教育面に反映していきたいと考えております。

これらを実践するにあたっては私一人ではできません。私がこれまで経験してきた様々なことを若い人達に伝えていくことこそが新たな伝統に繋がると信じております。皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■准教授就任のご挨拶**市川総合病院消化器内科**

岸 川 浩

平成25年4月1日付で市川総合病院消化器内科准教授を拝命致しました。

私は平成5年に慶応義塾大学医学部を卒業すると同時に母校の内科学教室に入局、4年間の内科学全般の研修後に慶応義塾大学消化器内科に所属し、消化器病学の臨床を学ぶとともに、小腸の粘膜防御機構に関する基礎研究に携わってきました。

平成11年8月に東京歯科大学市川総合病院内科に赴任し、今日まで胃十二指腸潰瘍やピロリ菌感染などの上部消化管疾患、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患、小腸疾患及び消化器内視鏡など、消化器病全般の診療、教育に携わり、臨

床の傍らで基礎および臨床研究も行ってきました。

消化器内科は、内視鏡治療や抗癌剤治療を必要とする悪性腫瘍、ウイルス性肝炎などの感染症、炎症性腸疾患などの免疫疾患など幅広い疾患を治療対象とする守備範囲の広い診療科です。市川総合病院消化器内科では、これら全ての消化器疾患に対する診断、治療が可能であり、市川市の地域医療において中心的役割を果たしています。

私はこの多彩な症例を扱う消化器内科において、バランス感覚のとれた、かつエビデンスに基づいた安全な医療を展開できるように努力し、また日常臨床で生じる疑問を臨床研究として検討することにも力を入れたいと思います。更に、多数の歯科・口腔外科症例に接することができる当院の特殊性を生かして、歯科関連の各講座と共同研究を行い、世界に対して本学から臨床に役立つエビデンスを発信していくことができると考えています。

微力ではございますが、東京歯科大学ならびに市川総合病院の発展のために精一杯頑張りたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

訃報 長谷川正康名誉教授ご逝去



本学名誉教授長谷川正康先生は、平成25年4月27日、急性胸部大動脈解離のためご逝去された。享年92歳。

長谷川先生は、昭和17年9月に東京歯科医学専門学校を卒業後学徒出陣し、復員した同21年6月東京歯科医学専門学校副手に採用された。助手を経て、同25年10月東京歯科大学講師に昇任された。さらに同月に校命により現職のまま早稲田大学に派遣され、早稲田大学校医並びに早稲田大学診療所歯科部長として昭和50年3月31日まで勤務された。その間、同27年4月東京歯科大学助教授、同43年2月早稲田大学講師を経られ、同49年3月に東京歯科大学を退職される。また、同33年7月には慶応義塾大学より医学博士の学位を受領した。昭和50年2月に東京歯科大学教授として復職され、千葉病院が開設された昭和56年8月まで東京歯科大学稲毛歯科診療所所長を務められ、同56年9月東京歯科大学水道橋病院病院長、

同58年東京歯科大学大学院歯学研究科科長を経られ、同61年5月に定年退職され、東京歯科大学名誉教授の称号を授与されると同時に東京歯科大学水道橋新病院建設に関する相談役に就任された。

長谷川先生と聞いて多くの方々が思い浮かべる事は、名著『歯内療法の実際<臨床家のために>』だと思われる。長谷川先生は歯内療法学に関する基礎的及び臨床的研究に生涯に亘って努められ、日本歯科保存学会はじめ、多くの学会で指導的な役割を果たされた。また、昭和44年から10年間で約200回にも及ぶ歯内療法に関する講演活動を行い、歯科医療の向上に貢献された。先生は、歯科の歴史に関する研究にも功績を残され、日本歯科医史学会において要職を務められ、『江戸の入れ歯師たち—木床義歯の物語—』や『むしばのたはごと (上下)』等、多くの著書を残された。

これらの功績により平成6年11月勲四等瑞宝章を授与され、さらに没後、従五位に叙された。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

学内ニュース

■平成25年度千葉病院レジデント辞令交付式

平成25年4月1日(月)午前9時より、千葉校舎第3教室において、平成25年度千葉病院レジデント辞令交付式が行われた。

式は櫻井 薫千葉病院副院長の開式の辞より始まり、高野伸夫千葉病院長による訓辞の後、新任レジデントおよび継続レジデントに各々辞令が交付され、式は無事に終了した。

※レジデントの氏名は、人事その他の欄に掲載



辞令を交付する高野千葉病院長(左)：平成25年4月1日(月)、千葉校舎第3教室

■平成25年度教育職員辞令交付式

平成25年度教育職員辞令交付式は、4月1日(月)午前10時より、千葉校舎第1教室において准教授以下を対象に開催された。井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、石井拓男副学長、高野伸夫千葉病院長、加藤靖明事務部長ご臨席のもと、狩野龍二大学庶務課長の司会進行により、4月1日付発令の採用(20名)、再任(24名)、昇任(9名)、配置替(1名)、任命(2名)に対し、井出学長より辞令が交付された。

交付終了後、井出学長から祝辞が述べられ、教育と研究、医療を通して社会へ貢献するとともに、大学の更なる発展に尽力してもらいたいとの挨拶があった。

午前10時30分からは、同教室において、4月1日発令のリサーチ・レジデント、ポストドクトラルフェロー、リサーチ・アシスタント、ティーチング・アシスタントに対する辞令交付式が開催され、井上 孝大学院研究科長より各代表者に辞令が交付された。

その後、柳澤副学長よりそれぞれの役割への期待と心構えについて訓辞があり、辞令交付式は滞

りなく終了した。



辞令を交付する井出学長(左)：平成25年4月1日(月)、千葉校舎第1教室



祝辞を述べる井出学長：平成25年4月1日(月)、千葉校舎第1教室

■平成25年度臨床研修開始式

平成25年4月1日(月)午後1時30分より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、千葉病院で研修を行う94名の臨床研修歯科医および関係者出席のもと、平成25年度歯科臨床研修開始式が行われた。

式は亀山敦史研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長より研修歯科医を代表して有泉由紀子研修歯科医に辞令が交付された。その後、高野千葉病院長による訓辞、高橋俊之研修管理委員長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

市川総合病院では、医科と歯科の合同による平成25年度臨床研修開始式が、平成25年4月1日(月)午後2時30分より、市川総合病院の第2・3会議室において開催された。当日は、安藤暢敏市川総合病院長から辞令交付があり、引き続き、安藤市川総合病院長、西田次郎研修管理委員長、片倉 朗歯科研修管理委員長から、それぞれ、ご挨拶を頂いた。

水道橋病院では、平成25年4月1日(月)午後1時より、6階研修室において平成25年度歯科医師臨床研修開始式が行われた。細川壮平水道橋病院研修管理委員長による開式の辞に続き、一戸達也水道橋病院長より臨床研修歯科医14名全員に辞令の交付と訓辞があり、無事に式を終了した。



辞令を交付する安藤市川総合病院長：平成25年4月1日(月)、市川総合病院第2・3会議室



訓辞を述べる高野千葉病院長：平成25年4月1日(月)、千葉校舎歯科臨床研修医室



訓辞を受ける研修歯科医：平成25年4月1日(月)、水道橋病院6階研修室

■第120期生(平成25年第5学年)登院式

平成25年4月1日(月)午前11時30分より、千葉校舎第2教室において、第120期生(平成25年度第5学年)122名の登院式が厳かに挙行された。式は矢島安朝臨床教育委員長の司会のもとに進められた。まずはじめに、高野伸夫千葉病院長が訓辞を述べ、次いで、列席者の紹介があり、列席者がそれぞれ臨床実習開始にあたっての心構えを説いた。

引き続き登院生を代表して明石良彦君が宣誓を行い、式は滞りなく終了した。

第120期生は今までに学んだ授業や総合学力試験、共用試験をクリアする中で習得した、知識・技能・態度を存分に発揮し登院実習に臨むべく、充実した表情で訓辞や心構えを聞いていた。



第120期生を代表して宣誓を行う明石良彦君(左)：平成25年4月1日(月)、千葉校舎第2教室

■平成25年度新入生・編入学生合同オリエンテーション実施

平成25年4月1日(月)午後1時より新入生・編入学生を対象としたオリエンテーションが、さい

かち坂校舎第1講義室において実施された。

井出吉信学長より「新入生に寄せて」、石井拓男副学長より「学生生活の心構え」、河田英司教務部長より「教務部の立場から」、佐藤亨学生部長より「学生部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」概要説明が行われた。

続いて、学生証添付用の顔写真の撮影を行い、オリエンテーションは滞りなく無事終了した。



真剣な表情で話聞き入る新入生：平成25年4月1日(月)、さいかち坂校舎 第1講義室

■歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテスト

平成25年4月20日(土)、27日(土)水道橋校舎13階ルームAにおいて、歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテストが開催された。基礎系・臨床系部門に所属する教員を対象に「教育職員が、歯科医師国家試験問題等を理解することにより、自身の分野だけでなく、幅広い分野の出題傾向・状況を把握し、教育・指導に資する。」という目的で実施された。

年度初めの多忙のところ、両日合わせ155名もの教員(対象者ほぼ全員)が受験した。



真剣な表情で受験する教育職員：平成25年4月27日(土)、水道橋校舎13階ルームA

■第122回歯科医学教育セミナー開催

平成25年4月22日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第122回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、石井拓男副学長、河田英司教務部長から説明が行われた。

はじめに、石井副学長から、本学の平成25年度入学試験の講評が、他大学歯学部の入試状況と併せて行われた。続いて、第106回歯科医師国家試験について、昨年に引き続き新卒者、既卒者も含め全国歯科大学で合格率トップを維持しつつも、さらなる教育活動の改善を図るべく、国家試験や総合学力試験の成績等をもとに比較・分析した結果について説明があった。

続いて、河田教務部長より、「25年度の教育方針」について、説明が行われた。

カリキュラム編成上の変更点や、学生支援体制の方針、新たなシステムの導入について、昨年度の出席状況、学生による授業評価等の説明があり、各学年の総合学力試験と共用試験の比較・考量等がなされた。

当日は多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する石井副学長：平成25年4月22日(月)、千葉校舎第2教室

■平成25年度解剖諸霊位供養法会

平成25年5月21日(火)午後2時30分より、水道橋校舎13階において、平成25年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

井出吉信学長はじめ大学幹部、関係教職員、第3学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列し、歯科医学教育と研究のため尊いご遺志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝の意を捧げ、ご冥

福をお祈りした。本学開設以来4千有余柱の御霊に向かい、真珠院 石井道彦導師により誦経が行われ、井出学長が祭文を奉読したのち参列者全員による献花が行われた。

続いて、学生を代表して第3学年の小澤範宏さんよりご遺族に対して挨拶があり、次に、ご遺族を代表して谷 光明様よりご挨拶を戴き、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が、文京区小石川の真珠院を墓参し散会となった。



祭文を奉読する井出学長：平成25年5月21日(火)、水道橋校舎13階ルームB

■平成25年度新入学生外セミナー

今回で15回目を迎える平成25年度新入学生外セミナーが、5月22日(水)から5月24日(金)までの2泊3日の日程で、木更津市にある「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的として開催されている。

新入生は5月22日(水)定刻通りに午前9時10分にさいかち坂校舎を出発し、10時20分にかずさアカデミアパークに到着した。

午前10時40分から開講式、11時00分からは「人間力を磨こう!」と題した講演を桜美林大学特任教授・名古屋外国語大学客員教授の永田順子先生からご指導をいただいた。昼食後、平田創一郎教授からアイス・ブレーキングということで「コンセンサスゲーム」、午後3時30分からは、橋本正次教養科目協議会幹事からグループ討議の説明、午後4時00分から1回目のグループ討議に入った。グループ討議の合間には3グループごとに記念写真を撮影した。

グループ討議は、新入生を12のグループに分け、与えられたテーマに基づきグループ対抗で実施される公開ディベートの情報収集等が行われた。午後6時30分からは、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、フォーク、ナイフの使い方や食事のエチケットなど細かなマナーについての説明を受けた。また、テーブルに同席した教職員やクラスメイトと食事を楽しんだ。

2日目の5月23日(木)は、午前9時からグループ討議を行い、午前中11時10分より金子 譲理事長による「東京歯科大学の歴史」と題した講演が行



真剣な表情で講演を聞く新入生：平成25年5月22日(水)、かずさアカデミアパーク



テーブルマナーの席で井出学長(右)と懇談する新入生：平成25年5月22日(水)、かずさアカデミアパーク



活発な意見交換が行われたグループ討議：平成25年5月23日(木)、かずさアカデミアパーク

われた。昼食後に3回目のグループ討議を行い、グループ発表に向けた資料収集や発表の内容が話し合われた。午後5時20分から、本学卒業生の小林健一郎先生から「臨床医から新入生へのメッセージ(歯科医療の現場から)」と題した講演が行われた。その後、午後6時30分から懇親会が行われ、石塚洋一第1学年副主任から校歌の指導が行われ、全員が校歌を合唱した。終盤にはビンゴゲームで盛り上がり、教職員や友人と親睦を深めた。懇親会終了後、新入生たちは翌日の公開ディベートに向けて、夜遅くまで準備に取り組ん



懇親会会場で親睦を深める新入生：平成25年5月23日(木)、かずさアカデミアパーク



公開ディベート直前にグループ内で打合せをする新入生：平成25年5月24日(金)、かずさアカデミアパーク



グループ討議でまとめた意見をわかりやすく発表する新入生：平成25年5月24日(金)、かずさアカデミアパーク

でいた。

最終日の5月24日(金)は、午前9時から3会場に分かれ「公開ディベート」を行った。各会場とも例年以上に白熱した討論が展開され、時間の延長をした会場もあり充実した「公開ディベート」となった。

最後に石井拓男副学長による閉講の辞により、3日間に亘るセミナーを終了した。帰路には市川総合病院に立ち寄り、病院の概要説明を受け、スタッフの先導により病院施設を見学して、新入学生外セミナーの全日程を終了した。

■第123回歯科医学教育セミナー開催

平成25年5月27日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第123回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新入生と、入学時教育の現状について」と題し、望月隆二教務副部長より、初めて2学年体制となったさいかち坂校舎の状況や新入生を対象に入学時教育として今年度より始めた新たな取組みについて、報告がなされた。

はじめに、写真を中心に、学生生活をはじめとする、さいかち坂校舎の現状について説明された。今夏、新館校舎を中心とした移転を迎えるにあたり、全学的に、移転後の状況を共有できた点で非常に良い機会であった。

続いて、入学時新入生を対象に実施した基礎理解度テストについて、科目別、過去の結果との比較といった様々な観点から、説明・分析がされた。その結果を踏まえ、生じる問題の対応策として、昨年度教育ワークショップ報告会(「学生サポート体制の構築」)で発表した、具体的方法の実施報告がなされた。事前に実施したテスト結果に基



説明する望月教授：平成25年5月27日(月)、千葉校舎第2教室

づくクラス編成による学力別授業や授業としての補習の取り入れ、学習スキルや態度を身に着けさせるためのセミナーの実施といった、学習面で学生をフォローする様々な取り組みが紹介された。今後も、このような取り組みを継続していく必要性を挙げ、どのような形で成果が出るのか注視していくとのことであった。

■平成25年度第1回水道橋病院職員研修会開催

平成25年5月27日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成25年度第1回水道橋病院職員研修会が開催された。今回は「医療人としての身だしなみについて」と題して、水道橋病院リスクマネジメント部会委員である藤波弘州助教(総合歯科)が講演した。

藤波助教はまず、「あるべき病院の環境」の具体例を提示し、全スタッフのパフォーマンス次第で患者サービスの価値が大きく変わり、当院の理念「思い遣りの心に依る医療」につながるものであると解説した。医療安全管理の目標は、医療事故防止のために、医療従事者の質的向上を図り医療環境を整備することである。また、医療従事者にとって大切なのは、患者に安心感を与えて信頼関係を築くことである。良好な信頼関係を築くための第一歩が身だしなみである。そして、人間の第一印象を決定づける要素としては、視覚情報が最も大きく影響している、と説明した。

更に、医療安全のための身だしなみを、頭髮・顔(髭を含む)・手・爪・服装・靴下・履物・化粧・香料・持物にポイントを置き、男性歯科医師、女性歯科医師、看護師、歯科衛生士、事務職員といった職種ごとの身だしなみの注意点について、写真を例示して解説した。



講演する藤波助教：平成25年5月27日(月)、水道橋校舎13階ルームB

医療従事者の身だしなみの基本は衛生的であることで、清潔感のない身なりは患者に不快感を与え、病院の評判をも左右する。医療人としての自覚を持ち、身だしなみをしっかりと整えることにより患者に好印象を与え、子供からご年配の方ま

で違和感なく受け入れられるよう努力が求められる。今回の研修会は身近な内容であったため参加者の関心も高く、特に新入教職員には有意義な研修であったに違いない。

大学院ニュース

■平成25年度 大学院歯学研究科入学式

平成25年4月8日(月)午前10時より、千葉校舎第一会議室において、平成25年度大学院歯学研究科入学式が挙行された。東 俊文大学院教務部長の開式の辞に続き、新入生の紹介を行った。そして、新入生代表 原田麗乃さんに井出吉信学長から入学許可証が授与された。続いて井出学長の訓辞、井上 孝大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して原田さんが宣誓し、入学式を終了した。



宣誓を行う原田大学院生：平成25年4月8日(月)、千葉校舎第一会議室

■第365回大学院セミナー開催

平成25年4月18日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第365回大学院セミナーが開催された。今回は、本学同窓で東京医科歯科大学分子免疫学分野助教の大野建州先生をお迎えし、「新規サイトカインIL-33と慢性炎症疾患」と題した講演を伺った。

2005年に同定されたIL-1ファミリーに属するIL-33(インターロイキン33)は、抗原の非存在下においてもマスト細胞(肥満細胞)を活性化でき、また、それら細胞の活性化に依存したアレルギー疾患などのTh2型免疫疾患の発症とのかかわりが強く示唆されている。最近では、IL-33は、新しく同定されたナチュラルヘルパー細胞などの

innate lymphoid cells(自然免疫のリンパ系細胞)から大量のTh2サイトカインの産生を誘導し、初期のTh2型免疫応答の誘導に関わるユニークなサイトカインとして非常に注目を集めている。一方で、IL-33はTh2型免疫応答のみならず、リウマチなど自己免疫疾患に加え、大腸炎や歯周病などの慢性炎症性疾患の病態形成にも深く関与していることが明らかになってきた。



講演される大野先生：平成25年4月18日(木)、千葉校舎第5教室

■第366回大学院セミナー開催

平成25年4月25日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第366回大学院セミナーが開催された。今回は、神奈川歯科大学口腔科学講座加齢制御薬理学教授の李 昌一先生をお迎えし、「抗加齢(アンチエイジング)歯科医学の基礎と臨床-抗酸化歯科療法への展開-」と題した講演を伺った。

病的な加齢の主要な要因として、細胞の酸化、遺伝的要因、ホルモンバランスの変調などが挙げられますが、これら要因の中の細胞の酸化の原因が活性酸素による「酸化ストレス」が重要である。活性酸素の酸化作用と活性酸素を消去する抗酸化システムのバランスを回復すること、すなわち「活性酸素を減らす!」あるいは「抗酸化システム

を強くする！」ことがアンチエイジング医学の臨床において重要なコンセプトとなる。口腔機能の中で我々の最近の研究では噛むこと(咀嚼筋運動)自体が酸化ストレスを軽減する機能をもつことを確認し、「活性酸素を減らす！」あるいは「抗酸化システムを強くする！」の双方を兼ね備えたアンチエイジング作用をもっている。正常な口腔というのは活性酸素による酸化ストレス制御(抗酸化)を唾液が行なっている。生活習慣病の原因としての活性酸素による酸化ストレスはすでによく知られており、我々の教室では歯周病の原因としても酸化ストレスが関わるエビデンスを報告してきた。また、歯科治療で用いられている根管消毒剤、漂白剤として使用されている次亜塩素酸や過酸化水素なども実は活性酸素で、活性酸素と歯科臨床は密接な関係にある。



講演される李先生：平成25年4月25日(木)、千葉校舎第5教室

■平成25年度大学院新入生学外総合セミナー開催

平成25年度の大学院新入生学外総合セミナーが平成25年5月8日(水)から平成25年5月10日(金)にかけて、静岡県御殿場市にある「時之栖 Hotel Brush Up」にて、平成25年度大学院新入生学外総合セミナーが行われた。

初日は、自己紹介の後、口腔超微構造学講座の山本教授より、「大学院で研究するということ～研究者としてスタートするために～」と題したご講演をいただいた。これから研究生活を開始する大学院生にとって大変有意義なものとなった。

次に研究の倫理をテーマに社会歯科学研究室の眞木吉信教授からご講演をいただいた。そして、課題が提示され、2日間にわたり、グループ別討議が行われた。発表では、幅広い意見が提出され、大学院生同士で熱心な討議が行われた。

3日目は、本学同窓で微生物学講座の非常勤講師を務められていた勝田台歯科医院院長の佐々木脩浩先生より「研究するということ」と題したご講演を伺った。1時間の講演であったが、佐々木先生の長いご経験と深い知識に支えられたご講演であった。続いて大学院生による英文学術論文紹介が行われた。自身が選んだ論文を発表するもので、論文の批判的評価とプレゼンテーション技術、そして質疑への応答を体験する充実した実習だった。

最後に修了式が行われ、学生間の交流が図れた3日間が終了した。



グループ討議風景：平成25年5月9日(木)、時之栖 Hotel Brush Up



講演後の集合写真：平成25年5月10日(金)、時之栖 Hotel Brush Up前

■第367回大学院セミナー開催

平成25年5月29日(水)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第367回大学院セミナーが開催された。今回は、愛知学院大学歯学部生理学講座の平場勝成教授をお迎えして、「全身運動機能と咬筋活動との関連－H反射を用いた解析－」と題した講演を伺った。

お話の内容は、運動動作には常にその動作を円滑に行わせている様々な神経の反射運動を伴うと言われており、ヒトでよく応用される脊髓単シナッ

プス反射であるヒラメ筋のH反射(Hoffmannreflex)を用いた咬筋の活動との関連についてであった。先生は、生理学者でありながら補綴学教室で臨床経験も積まれて来られている。日常“重いものを持ち上げるときに無意識のうちに歯を喰いしばる”と言った経験を踏まえて、臨床面から全身の運動機能と咬筋活動との間に密接な関係が存在することを、Remote Facilitation (遠隔促通)の観点から整理して非常に分かりやすくお話をされた。

遠隔促通とは、ある特定の筋を強く収縮させると、その筋とは離れた所に位置していて機能的には無関係の筋の興奮性が増加するというものであり、H反射や伸長反射を指標に研究されてきている。具体的には強く噛みしめて咬筋活動を増加させると、ヒラメ筋のH反射が促通されるというものである。一方、前脛骨筋の強い収縮は、咬筋の興奮性を増加させると言うことが下顎張反射を指標に報告されている。従って遠隔促通は(咬筋 →

下肢の筋)という方向性だけでなく、逆の(下肢の筋→咬筋)という方向性の遠隔促通の結果、二次的に咬筋に出現した活動なので、意味合いが大きく異なってくるところから、伸長反射、H反射、Ia抑制などの基礎的事項を解説頂いた。“たかが筋電図！されど筋電図！”大学院生には、日頃聞けない内容で大変意義ある内容の講演であった。



講演される平場教授：平成25年5月29日(水)、千葉校舎第5教室

トピックス

■直井友紀さん(3年) うつのみや市民賞を受賞

うつのみや市民賞は、芸術、科学その他の文化活動やスポーツ活動において、市民の誇りとなる



宇都宮市の佐藤栄一市長よりメダルと賞状を受け取る直井友紀さん(右)：平成25年4月1日(月)、オリオンスクエア



うつのみや市民賞のメダル

ような優れた功績を取めたと認められる個人・団体に贈られるもので、直井友紀さん(3年)は、昨年夏、カナダ・エドモントンで開催された、「第5回IBAF女子野球ワールドカップ」で捕手として活躍し、日本代表チーム(マドンナジャパン)の史上初、三連覇に貢献した功績が評価されての受賞となった。

■武本真治講師 第61回日本歯科理工学会学術講演会で発表優秀賞受賞

平成25年4月13(土)・14日(日)に開催された第61回日本歯科理工学会学術講演会(タワーホール船堀・東京都)で歯科理工学講座 武本真治講師が発表優秀賞を受賞した。本発表優秀賞は、当該学術講演会で発表された口頭発表、ポスター発表の中からプレゼンテーション技術、発表内容、討議での受け答えなどの5項目について学会評議員および称号認定資格保有者の投票により選出される賞である。昨秋開催された第60回日本歯科理工学会学術記念講演会(九州大学医学部百年講堂・福岡)での武本講師の“フッ化物溶液中でのTi-Nb-Ta-Zr合金の電気化学腐食挙動”と題し

た発表が評価されての受賞となった。

受賞対象となった研究は、東北大学金属材料研究所・新家光雄所長、仲井正昭准教授との共同研究で、無毒性・非アレルギー元素から構成され、良好な強度と延性のバランスを示すことが知られているTi-29Nb-13Ta-4.6Zr合金のフッ化物溶液中での電気化学腐食挙動を調べ、純チタンと比較検討することでフッ化物に対する耐食性を評価したものである。Ti-29Nb-13Ta-4.6Zr合金では、純チタンと比較して腐食の進行が抑制されていることを明らかにするとともに、その表面構造が緻密な二重層の酸化被膜が形成していることを明らかにした。これらの結果から、Ti-29Nb-13Ta-4.6Zr合金表面では、添加されている元素の酸化被膜がフッ化物による酸化反応を抑制している可能性を提案した。口腔環境でのチタン合金の安全性を推測する上で、フッ化物による耐食性を電気化学的手法によりシミュレーションすることが重要であり、本研究が基礎的知見を詳細に検討していることが高く評価された。今後、Ti-29Nb-13Ta-4.6Zr合金が歯科用合金として応用されるためにさらなる基礎研究、臨床研究を充実させ、EBMに基づいた臨床を提案することが熱望されている。

■渡邊浩章助教 第61回日本歯科理工学会学術講演会で日本歯科理工学会論文賞受賞

平成25年4月13(土)・14日(日)にタワーホール船堀(東京都)で開催された第61回日本歯科理工学会学術講演会での総会において、歯科保存学講座 渡邊浩章助教が日本歯科理工学会論文賞を受賞した。論文賞は、日本歯科理工学会が発刊する英文誌・Dental Materials Journalおよび和文誌・歯科理工学会誌に2012年に掲載された論文の中で新規性、独創性があり、将来の発展に貢献が期待できる学術論文に贈られる賞である。

受賞論文は、“Change in surface properties of zirconia and initial attachment of osteoblast-like cells with hydrophilic treatment”で、正方晶ジルコニア多結晶体の表面に親水化処理を施し、その表面特性の変化と骨芽細胞様細胞の初期接着への影響について検討した論文である。本論文では、ジルコニア表面をアルミナ粉末のサンドブラストと酸エッチングにより粗粒にし、酸素プラズマ処理、紫外線処理を施したところ、表面の炭素量が

相対的に減少し超親水性となり、初期細胞接着の増加や細胞形態に影響することを明らかにした。これらの結果によりインプラント材料としての可能性を示すとともに、整形外科領域への応用が期待できる。また、本論文は本学口腔科学研究センターにて、渡邊助教が大学院生時の研究テーマとした学位論文であり、本学の研究の質の高さを示したといえる。



受賞した渡邊助教：平成25年4月14日(日)、タワーホール船堀

■添田亮平助教 日本補綴歯科学会奨励論文賞受賞

有床義歯補綴学講座の添田亮平助教が平成24年度公益社団法人日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞し、平成25年5月17日(金)に福岡市・福岡国際会議場で開催された公益社団法人日本補綴歯科学会 設立80周年記念 第122回学術大会・総会において、古谷野 潔理事長より賞状を授与された。受賞演題は、「Influence of chewing force on salivary stress markers as indicator of mental stress」でThe Journal of Oral Rehabilitation 39巻261-269頁2012年発行に掲載された論文である。これまで、チューイングが精神的ストレスを緩和することは、唾液中のストレス指標(神経系、内分泌系および免疫系)を用いた研究により明らかとされている。しかし、チューイング時の運動要素が精神的ストレスの緩和に関与しているかについては、限られた報告しかない。そこで本研究では、チューイング力が精神的ストレスの緩和に及ぼす影響を唾液中のストレス指標(アミラーゼ活性、コルチゾール濃度およびs-IgA分泌率)を用いて検討した。本研究により、チューイング力の違いが内分泌系のストレス指標であるコルチゾール濃度に影響を与えることを示し、強いチューイ

ングは弱いチューイングと比較して精神的ストレスの緩和に効果的であることが明らかとなった。櫻井 薫教授、田坂彰規講師の指導のもと大学院4年間で行った研究成果が、非常に高い評価を得て、今回の受賞につながったものと考えられる。添田助教は、現在も高齢者におけるチューイング時間が精神的ストレス緩和に及ぼす影響について研究しており、10月4日（金）・5日（土）に開催されるEuropean College of Gerodontologyで発表予定である。今後のさらなる活躍が期待される。



古谷野理事長（左）より表彰される添田助教：平成25年5月17日（金）、福岡国際会議場



受賞した添田助教（右）と共著者の櫻井教授：平成25年5月17日（金）、福岡国際会議場

■高野智史助教 日本補綴歯科学会奨励論文受賞

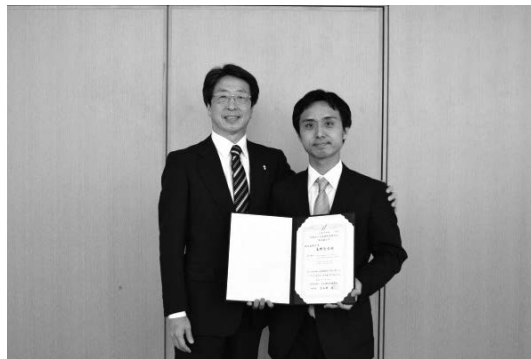
有床義歯補綴学講座の高野智史助教が平成24年度公益社団法人日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞し、平成25年5月17日（金）に福岡市・福岡国際会議場で開催された公益社団法人日本補綴歯科学会 設立80周年記念 第122回学術大会・総会において、古谷野 潔理事長より賞状を授与された。受賞論文は、「Fatigue strength of Ce-TZP/ Al_2O_3 nanocomposite with different surfaces」で Journal of Dental Research 91 巻800-804頁

2012年発行に掲載された論文であり、櫻井 薫教授、吉成正雄教授、田坂彰規講師との共著である。

近年、メタルフリーレストレーションとしてジルコニアが固定性補綴装置や口腔インプラントに応用されている。本論文はジルコニアの中でも特に優れた機械的性質を示すとされるCe-TZP / Al_2O_3 ナノ複合体 (NANOZR) に着目し、インプラント体として応用することを想定した表面処理がNANOZRの疲労強度に及ぼす影響を明らかにした。一般的にジルコニアは表面処理により結晶構造の変化やマイクロクラックが発生し、機械的性質が変化する可能性がある。しかし、表面処理を施したNANOZRはISO13356で定められた外科用インプラントにおけるジルコニアの疲労強度の基準である320MPaの2倍以上の疲労強度を有することが確認された。このことから、NANOZRをインプラント体としての応用の可能性が広がるとともに、今後、ジルコニア研究の考察の一助となりえるものである点が非常に高い評価を得て、今回の受賞につながったものと考えられる。



表彰を受ける高野助教（右）と古谷野理事長：平成25年5月17日（金）、福岡国際会議場



受賞した高野助教（右）と共著者の櫻井教授：平成25年5月17日（金）、福岡国際会議場

■浅倉恵子元市川総合病院副看護部長 瑞宝単光章受章

本学市川総合病院元副看護部長浅倉恵子氏が、平成25年春の叙勲で瑞宝単光章を受章された。

浅倉氏は、昭和48年より看護職として経歴を重ね、昭和53年より本学市川総合病院に勤務し、

平成元年に看護婦長に昇任、同21年に副看護部長に就任し、同24年に定年退職となるまで、長きにわたり看護業務に精励するとともに、人材の育成ならびに看護の質向上に貢献された。

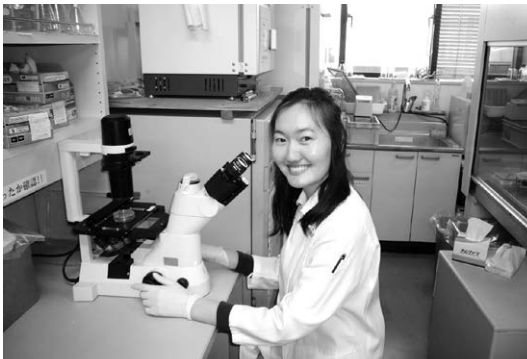
長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。

国際渉外部レポート

■国費留学生紹介

大使館推薦国費留学生（平成24年度）として、モンゴルからセオド トンガラガ先生が平成25年度4月東京歯科大学大学院歯学研究科（臨床検査病理学講座）に入学した。トンガラガ先生は、平成24年4月から9月まで東京医科歯科大学で日本語の研修を受け、10月からは本学臨床検査病理学講座に専修科生として席を置き、大学院入学の準備を進めていた。

また平成25年度の大使館推薦国費留学生とし



トンガラガ先生：臨床検査病理学講座ですでに研究を始めている。（トンガ先生と呼んでください）

て、イエメンからアクラム アルワハビ先生が本学口腔外科学講座での研修を希望し、本年4月2日(水)に来日した。トンガラガ先生同様、現在東京医科歯科大学において日本語の研修を行っており、来春の本学大学院入学（口腔外科学講座を希望）を目指し準備を進めている。

両留学生は東京歯科大学の市川宿舎に滞在している。母国を離れて5年間という長期滞在であり、是非いつでも声をかけて温かく見守っていただきたい。



アルワハビ先生（右）：イエメンよりドバイ経由で成田に到着。出迎えた阿部国際渉外部長代行との記念写真。（ワハビ先生と呼んでください）

図書館から

■本学教員著書について

一戸達也編 歯科における安全で確実な局所麻酔：無痛治療の実践テクニック、第一歯科出版、2013

関根秀志編著 補綴（インプラント修復の臨床基本手技3）、デンタルダイヤモンド社、2013

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

■「読みたい論文を最速で入手する！春の文献検索講習会」を開催

平成25年5月20日(月)から28日(火)にかけて、医学文献検索講習会を図書館2階グループ学習室にて開催した。医学文献の検索に役立つデータベース「医中誌Web」、「PubMed」について、それぞれ基礎編・応用編を設け、30分程度の解説・演習を行った。基礎編では、基本的な検索方法と

文献入手法について、応用編ではタグや履歴を利用した検索、また研究デザインで絞り込む検索などの演習を行った。全日程で9名の参加があり、アンケートでは、ほとんどの方が今回の講習会の内容について、今後文献検索を行う上で「大変役に立つ」または「役に立つ」と回答しており、好評を得た結果となった。



医中誌Web講習会風景：平成25年5月23日（木）、千葉校舎図書館2階 グループ学習室

学生会ニュース

■学生会主催新入生クラブ紹介開催

平成25年4月13日（土）午後1時より、学生会主催による恒例の新入生オリエンテーションが、さいかち坂校舎第1講義室において開催された。オリエンテーションに参加した新入生ならびに編入学生は、諸先輩方の説明を興味深く真剣に聞いて入部するクラブを決めた。

初めに、司会者の岡澤亮平君（5年）より、学生会と東歯祭実行委員の活動内容の説明が行われた。

「入学おめでとう。私は入学時から東歯祭実行委員となり、東歯祭を盛り上げてきました。また、現在はバレーボール部のキャプテンとして充実した学生生活を送っております。新入生の皆さんも同じように楽しく充実した学生生活を送っていただきたいと思います。」と挨拶があった。続いて、濱田真衣学生交流会局長（5年）から延世大学校歯科大学との交流プログラムについて説明があった。



笑顔でクラブ紹介を聞く新入生：平成25年4月13日（土）、さいかち坂校舎 大教室

引き続き運動系・文化系それぞれのクラブ・同好会の紹介が行われた。さいかち坂校舎でのクラブ紹介は今年で2回目となり、ほとんどのクラブが映像を使つての勧誘となったが管弦楽部のみ生演奏を披露した。

クラブ発表は午後5時20分に終了。恒例の呼び出しは、さいかち坂校舎でも引き継がれ、出口には各クラブの先輩が待ち受けており、所属するクラブの名前が呼ばれると大歓声が沸き起こった。今年も大盛況のうちに学生会主催新入生オリエンテーションを終えることができた。

■自動車部 関東医歯薬連盟戦参加報告

平成25年5月12日（日）に、千葉県八千代市にある「ネオスピードパーク」にて関東医歯薬連盟戦の第一戦レーシングカートの大会が行われた。

本学からは6名が出場した。谷本雄輝（3年）が準優勝、根本悠平（2年）が4位という幸先の良い



最終ラップ。デッドヒートを繰り広げる：平成25年5月12日（日）、ネオスピードパーク・八千代市

結果となった。

今回、浅野和磨(1年生)が初参加し、「良い経験になった。とても楽しかった。」と好評だった。こ

れから好成績を残せるよう練習に励んでいきたい。

谷本雄輝(3年)

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成25年度歯科衛生士専門学校入学式

歯科衛生士専門学校第65期生の入学式は、平成25年4月4日(木)午前10時より千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気の中で挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、国歌斉唱に引き続いて、高橋俊之副校長から新入生ひとり一人が呼名・起立により紹介され、石井拓男校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、学校法人東京歯科大学理事長の金子 譲先生、井出吉信東京歯科大学学長ならびに市川明美歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞をいただいた。在校生

を代表して3年生の荻野あずさんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の渡邊望咲さんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の吉田茉由さんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、杉山哲也教務部長から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーションを受け、入学式のすべての日程を終了した。



入学式後の集合写真：平成25年4月4日(木)，千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校

校 長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多くのご来賓をお迎えして、平成二十五年度の入学式を挙げていきますことを心からお喜び申し上げます。

東京歯科大学歯科衛生士専門学校は、歯科大学が作った歯科衛生士養成機関としては我が国で最初のものであります。歯科衛生士の業務として、現在最も普及したものに、歯周疾患への対応があります。本校は、昭和二十四年（一九四九年）の開校当時から、特に歯石除去について重点を置いた教育を行ってまいりました。現在から見ても、大変先進性のある優れた教育がなされていたこととなります。本校は、我が国で歯科衛生士教育が始まったその時に、すでに国内で最も充実した学校でした。この本校の先進性は、その後も今日に至るまで続いており、教育内容はさらに充実したものとなっております。

新入生の皆さんは、三年の後には世に出で多くの病んだ人々に出会い、その人達の健康を支えることとなります。その時に、歯科衛生士として自信を持って対応できる、知識と技能と態度が身に付いていることに気がつくと思います。同時に、自分たちがいかに素晴らしい学校で学んだのかを実感することになると確信しております。

新入生の皆さんは、今、希望と期待と少しの不安を持ってここにいることと思います。これからの三年間は、一生の思い出となる、人生において得難い年月となることは間違いありません。歯科衛生士という職業を共有する、生涯の友人と巡り会うことになると思います。また、多くのことを教えてくれる多くの教員との出会いは人生における宝となり、卒業後も歯科衛生士である皆さんを支援し導いてくれるものとなるでしょう。

歯科衛生士という職業の評価は日に日に高まっており、皆さんが卒業する頃は、さらに歯科衛生士に求められることが変わって来ることが予想されます。そのような事態にも臆することなく、皆さんが歯科衛生士として自信に溢れた姿で三年後にここに立つことを願ひまして、私の訓辞といたします。

宣 誓

第65期生代表

渡邊 望咲

学校長訓辞の意を体して克く学生の本分を尽し必ず素志を貫徹し本校の伝統を昂揚するよう努めることを固く誓約いたします。

■歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修セミナー開催

第1学年と第2学年合同の学外研修セミナーが平成25年5月10日(金)、11日(土)に1泊2日の日程で幕張本郷の「メイプルイン幕張」において行われた。「周囲との協調性を高めるために、コミュニケーションの基礎を習得する」を目標として、グループワークを中心とした2日間のプログラムである。

午前10時より開講式がはじまり、石井拓男校長からご挨拶をいただき、最初のプログラムでは、1,2学年合同のコミュニケーショントレーニングを行った。このプログラムは、グループでの効果的な協同作業のあり方や、1つ1つの情報の重要性を学ぶため、実施している。90分間の短い時間ではあったが、各班協力し、一生懸命取り組んでいた。にぎやかな昼食ののち、「口腔清掃用具に関する調査」に関する報告会を行った。8つのグループに分かれ、歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、歯磨剤など、歯科保健指導に用いる身近な口腔清掃用具について、調査結果の発表が行われた。やっと学校生活に慣れはじめたばかりの1年生も、興味深く耳を傾け、質問をする姿も見られた。今年、プレゼンテーションの他にも自分達で作製した模型を使い報告を行うなど、様々な工夫が見られた。最初のグループディスカッションでは、1年生は「歯科衛生士の社会的認知度を上げるには」、2年生は「歯科衛生士として備えるべき能力・マナーとは」をテーマに、学年毎に6班に分かれてKJ法によりディスカッションを行い、その結果をまとめて発表した。その後、夕食のミックスフライを全員で食べ、一息ついた後、チームごとに6班に分かれ、今度は、



ディスカッションの様子：平成25年5月10日(金)、メイプルイン幕張

1年生は「救急車の有料化について」、2年生は「出生前診断について」をテーマに賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。1グループにつき2回の対戦では、熱のこもった弁論と質疑応答が繰り広げられ、夜の9時に研修第1日目の日程を終了した。

2日目、朝7時の朝食後、昨日の疲れを感じさせない元気な顔で8時20分から1,2学年合同のグループで「本校の国家試験合格率100%を維持するには」をテーマに、KJ法でアイデアを出しながらディスカッションを行い、その結果をまとめて2つの会場に分かれ発表を行った。1,2学年合同グループの為か、ディスカッションが進まないグループもあったが、それぞれ自分達の結論をしっかりと発表していた。その後閉講式を行い、石井校長から研修の成果についてご講評を頂き、コミュニケーショントレーニングとディベートで優秀な班への表彰式を行った。そして、研修の最後に、全員で校歌を斉唱し、記念に集合写真を撮影し、すべての日程を終了した。



ディベートの様子：平成25年5月10日(金)、メイプルイン幕張



集合写真：平成25年5月11日(土)、メイプルイン幕張

平成25年度学生数一覧

学 年	男	女	計	班分け	欠 番	休学者
1 年	68	64	132			20 62
2 年	84	62	146	A 班 : No. 1 ~ 73 B 班 : No. 74 ~ 146		
3 年	70	67	137	A 班 : No. 1 ~ 69 B 班 : No. 70 ~ 138	66	138
4 年	82	61	143	A 班 : No. 1 ~ 71 B 班 : No. 72 ~ 143		
5 年	77	46	123	A 班 : No. 1 ~ 25 B 班 : No. 31 ~ 55 C 班 : No. 61 ~ 84 D 班 : No. 91 ~ 114 E 班 : No. 121 ~ 145	26 ~ 30 56 ~ 60 85 ~ 90 115 ~ 120	145
6 年	82	55	137		40 44 113 119 120 127 137 140	
合 計	463	355	818			

平成25年5月1日 教務課

人物往来

■海外出張

○武本真治講師(歯科理工学)

Radboud University Nijmegen Medical Centerにおいて細菌感染によるインプラント体の耐食性評価についての共同研究のため、平成25年4月8日(月)オランダ・ナイメーヘンへ出発。帰国は平成26年4月7日(月)の予定。

○青山龍馬助教、二宮 研助教(整形外科学)

第4回アジアパシフィック頸椎学会において参加及び発表を行うため、4月11日(木)から13日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

○武田友孝准教授(スポーツ歯学)

2013 Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP において発表を行うため、4月12日(金)から15日(月)まで韓国・済州島へ出張。

○佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)

アメリカ補綴学会第95回学術大会への参加および、ボストン大学での補綴ポストグラジュエートコースの手伝いのため、4月16日(火)から24日(水)まで、アメリカ・カフルイ、ボストンへ出張。

○ピッセン弘子教授(水病・眼科)

ASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery) アメリカ白内障屈折矯正手術学会へ出席のため、4月19日(金)から25日(木)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

○篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)

5月に開催されるARVO (Association for Research in Vision and Ophthalmology) の一環として行われるSightLife1主催の会議、およびセッションに参加のため、5月1日(水)から9日(木)まで、アメリカ・シアトルへ出張。

○島崎 潤教授(市病・眼科)

ARVO (Association for Research in Vision and Ophthalmology) 年次集会出席のため、5月2日(木)から11日(土)まで、アメリカ・シアトルへ出張。

○茂木悦子准教授(歯科矯正学)

IFUNA (7th International Functional Association) における口頭、ポスター計4演題の発表のため、5月2日(木)から5月12日(日)まで、フランス・パリ、イギリス・ロンドンへ出張。

○岡田 聡准教授(市病・神経内科)

IMMUNOLOGY 2013にて発表を行うため、5月3日(金)から8日(水)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○平山裕美子助教、山口剛史助教、富田大輔助教、鳥山直樹臨床専修医、比嘉一成研究技術員(市病・眼科)

ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) 2013 Annual Meetingにて発表を行うため、平山裕美子助教は5月3日(金)から10日(金)まで、山口剛史助教、富田大輔助教は5月4日(土)から9日(木)まで、鳥山直樹

臨床専修医は5月4日(土)から11日(土)まで、比嘉一成研究技術員は5月5日(日)から10日(金)までアメリカ・シアトルへ出張。

○平沢 学助教(水病・眼科)
ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) 2013 Annual Meetingにて発表を行うため、5月4日(土)から11日(土)までアメリカ・シアトルへ出張。

○堀内彬代レジデント(歯科矯正学)
第7回IFUNA (International Functional Association) にて、ポスター発表を行うため、5月4日(土)から14日(火)まで、フランス・パリへ出張。

○阿部伸一教授(解剖学)
延世大学校歯科大学 1年生に嚙下機能の講義を行うため、5月5日(日)から7日(火)まで、韓国・ソウルへ出張。

○坂本輝雄講師(歯科矯正学)
12thInternational Congress on cleft lip and palate and related craniofacial anomaliesにて発表を行うため、5月5日(日)から12日(日)まで、アメリカ・オーランドへ出張。

○村戸ドール客員講師(市病・眼科)
ARVO 2013 Annual Meetingに出席および、世界コンタクトレンズワークショップへ参加のため、5月5日(日)から16日(木)まで、アメリカ・シアトルへ出張。

○高松 潔教授、小川真里子講師(市病・産婦人科)
第17回国際女性心身医学会(ISPOG 2013)において発表(高松 潔

教授は座長)を行うため、高松 潔教授は5月20日(月)から25日(土)まで、小川真里子講師は5月18日(土)から26日(日)まで、ドイツ・ベルリンへ出張。

○武井 泉教授(市病・内科学)
国際臨床化学会(IFCC)、HbA1c Integrated projectにおいて、日本代表として会議に出席するため、5月18日(土)から23日(木)まで、イタリア・ミラノへ出張。

○中鉢正太郎助教(市病・内科学)
ATS 2013 Conferenceに参加、および発表のため、5月18日(土)から24日(金)まで、アメリカ・フィラデルフィアへ出張。

○阿部伸一教授(解剖学)
台北医学大学歯学部・衛生学部・技工学部において摂食・嚙下メカニズムの講義を行うため、5月25日(土)から27日(月)まで、台湾・台北市へ出張。

○澁川義幸講師、佐藤正樹助手(生理学)
11th TMD (International Conference on Tooth Morphogenesis and Differentiation) 2013に参加、および発表のため、5月26日(日)から6月1日(土)まで、フランス・マルセイユへ出張。

○白石 建教授、青山龍馬助教、海苔 聡助教(市病・整形外科)
29thAnnual Meeting European Section CSRS (第29回ヨーロッパ頸椎学会)に参加、および発表のため、5月29日(水)から6月3日(月)まで、フランス・ボルドーへ出張。

大学日誌

平成25年4月

- 1 (月) 5年生(120期)オリエンテーション
レジデント辞令交付式
病院職員辞令交付式
専任教員(准教授以下)辞令交付式
RR・PF・RA・TA辞令交付式
5年生(120期)登院式
1年生初日・2年生編入学生合同オリエンテーション
[於:さいかち坂校舎]
5年生(120期)登院器材刻印・検査
歯科臨床研修開始式
臨床研修管理小部会
防火・防災安全自主点検日
採用者辞令交付式(市病)
辞令交付(水病)
臨床専門専修科生全体集合(水病)
歯科医師臨床研修開始式(水病)
- 2 (火) 3・4年生オリエンテーション
1年生2日目・2年生オリエンテーション
[於:さいかち坂校舎]
- 3 (水) 2・3・4年生前期授業開始
リスクマネージメント部会
ICT会議
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 4 (木) カルテ指導委員会
歯科衛生士専門学校入学式
感染制御委員会(市病)
ICT委員会(市病)
- 5 (金) 平成25年度入学式
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテーション[~8日]
- 8 (月) 1年生前期授業開始
大学院入学式
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会

- 8 (月) 感染予防対策委員会 (ICC)
医局長会
臨床教育委員会
医療安全管理委員会(市病)
- 9 (火) 臨床修練委員会
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会(人事委員会終了後)
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始
- 10 (水) 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
6年生オリエンテーション
ICU運営委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
- 11 (木) 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
午後のリサイクル(市病)
手術室運営委員会(市病)
1年生フレッシュマンセミナー[於:さいかち坂校舎]
- 12 (金) 感染予防対策チーム委員会(水病)
- 13 (土) 学生会主催新入生オリエンテーション
- 15 (月) 学生部(課)事務連絡会
医療安全研修会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 17 (水) 衛生委員会
CPC(市病)
- 18 (木) 情報システム管理委員会
第365回大学院セミナー
部長会(市病)
診療科活動報告会(市病)
診療録指導委員会(水病)
- 20 (土) CBTを利用した国試等の現状把握[於:水道橋校舎]

20 (土)	患者サロン (市病)	13 (月)	医療安全管理委員会
22 (月)	褥瘡対策検討会		感染予防対策委員会 (ICC)
	第122回歯科医学教育セミナー		医局長会
	機器等安全自主点検日		臨床教育委員会
	電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)		地域連携委員会 (市病)
	広報誌編集委員会 (市病)		医療安全管理委員会 (市病)
	NSTカンファレンス (市病)		教職員健康診断 (第1日目) (水病)
	教職員研修会 (水病)		公認会計士監査 [~ 21日] (水病)
23 (火)	医療安全管理委員会 (水病)	14 (火)	臨床教授連絡会
	感染予防対策委員会 (水病)		講座主任教授会
	個人情報保護委員会 (水病)		人事委員会
	医療連携プロジェクト委員会 (水病)		第38回コミュニケーション学作業部会
	科長会 (水病)		薬事委員会 (市病)
24 (水)	糖尿病教室 (市病)	15 (水)	教職員健康診断 (第2日目) (水病)
	糖尿病ケアチームカンファレンス (市病)		基礎教授連絡会
	衛生委員会 (水病)		大学院運営委員会
	データ管理者会議 (水病)		大学院研究科委員会
	病院連絡協議会 (水病)		環境清掃日
	診療録管理委員会 (水病)		危険物・危険薬品廃棄処理日
25 (木)	第366回大学院セミナー		輸血療法委員会 (市病)
	管理診療委員会 (市病)		病院長退任講演会 (市病)
26 (金)	医療連携協議会		医療安全管理委員会 (水病)
	災害対策実施部会 (市病)		感染予防対策委員会 (水病)
27 (土)	CBTを利用した国試等の現状把握 [於:水道橋校舎]		個人情報保護委員会 (水病)
30 (火)	1~4年生休講日 [~ 2日]		医療連携プロジェクト委員会 (水病)
	薬事委員会		科長会 (水病)
	データ管理者会議	16 (木)	千葉校舎課長会
	カルテ整備委員会		業務連絡会
	診療記録管理委員会		高度・先進医療委員会
	医療サービスに関する検討会		部長会 (市病)
			診療科年間活動報告会 (市病)
			診療録指導委員会 (水病)
平成25年5月		18 (土)	1・2年生定期健康診断 [於:さいかち坂校舎]
1 (水)	1~4年生休講日 [~ 2日]		患者サロン (市病)
	リスクマネジメント部会	20 (月)	3・4・5・6年生定期健康診断
	ICT会議		医療安全研修会
	防火・防災安全自主点検日		機器等安全自主点検日
	口腔健康臨床科学講座会 (水病)	21 (火)	解剖慰霊祭 [於:水道橋校舎]
2 (木)	カルテ指導委員会		医療連携委員会
	感染制御委員会 (市病)		歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
	ICT委員会 (市病)	22 (水)	新入生学外セミナー [~ 24日]
	診療科年間活動報告会 (市病)		糖尿病教室 (市病)
7 (火)	1年生振替授業 (月曜日分)		糖尿病ケアチームカンファレンス (市病)
	臨床研修管理小部会		衛生委員会 (市病)
8 (水)	2~4年生振替授業 (月曜日分)		DPC対策委員会・保険診療検討委員会 (市病)
	大学院新入生学外総合セミナー [~ 10日]		CPC (市病)
	公認会計士監査 [~ 10日] (市病)		衛生委員会 (水病)
	救急委員会 (市病)		データ管理者会議 (水病)
	ICU運営委員会 (市病)	23 (木)	管理診療委員会 (市病)
	リスクマネジメント部会 (水病)		研修管理委員会 (水病)
	薬事委員会 (水病)	24 (金)	病院長退任記念祝賀会 (市病)
	臨床検査室委員会 (水病)	27 (月)	平成25年度定期健康診断実施 [~ 5/31]
	医療品安全管理委員会 (水病)		第123回歯科医学教育セミナー
	医療機器安全管理委員会 (水病)		電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)
9 (木)	手術室運営委員会 (市病)		NSTカンファレンス (市病)
	診療科年間活動報告会 (市病)		教職員研修会 (水病)
10 (金)	電気設備法定検査 - 停電 (研究資料棟) (講堂)	28 (火)	データ管理者会議
	歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修セミナー [~ 11日]		カルテ整備委員会
	感染予防対策チーム委員会 (水病)		図書委員会
11 (土)	電気設備法定検査 - 停電 (教養棟、実験動物施設、研究資料棟) (厚生棟、図書館、体育館、部室合宿棟、停電 [一般系] (市病)		診療記録管理委員会
	電気設備法定検査 - 停電 (全館)	29 (水)	第367回大学院セミナー
12 (日)	病院運営会議	30 (木)	理事会 (法人)
13 (月)	個人情報保護委員会	31 (金)	評議員会 (法人)
			災害対策実施部会 (市病)

【訂正】

第259号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

10頁 寄附行為施行細則第4条並びに第5条に規定する役職者の選任について(報告)の日付
(誤)平成25年1月17日 → (正)平成25年3月29日

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充(委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二
椎名 裕 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 前田健一郎
百崎和浩 山本祐樹
(平成25年5月現在)



編集後記

4月。若々しい、あたらしいエネルギーが、全国から集まりました。

千葉校舎での最後の入学式。宣誓をおこなった新入生代表の済川志麻さん、壇上で徽章を胸にした宮崎創太くん。大学院新入生代表の原田麗乃さん。衛生士校の新入生代表は渡邊望咲さん。それぞれの一年生たちが、学年代表の誇りを持って、壇上に立ちました。これに、大使館推薦の国費留学生として、モンゴルからはSer-Od Tungalag(セオド トンガラガ)さん、イエメンからはAkram Al-Wahabi(アクラム アルワハビ)さんがメンバーに加わります。

入学式の訓辞の中で、校歌に触れた一節がありました。昭和2年。学生たちの熱い思いでつくられた、北原白秋作詞、山田耕作作曲の東京歯科大学校歌。「校旗は燦たり 風ひるがへれり…」「水道橋畔 日は照りわたれり…」ゆかりの地“水道橋”の新たなスタートです。

自角坂の上では、緑と花につつまれた稲毛の校舎を知らない、新しい世代の東京歯科の学生たちが、サイカチっ子らしい学生生活を始めています。

千葉のキャンパスではそれぞれの花が個性を競います。

伸びのびと枝を伸ばし、自然に、ゆっくりと、何年もの時間をかけ、そして、春に待ち望まれる花となっていく満開の桜。

季節になると、空に向かって伸ばした枝々をみずぼらしいほどに打ち落とされ、振り向かれることなく時を過ぎ、そして、ある日、信じられないほど鮮やかな紅で、周りの空気を、一瞬にして華やかにし、潔く散っていくアメリカデイゴ。

そして。ひとの目を奪う対照的な咲き方の間に、気づかれることはないけれど、ふと、感動とやすらぎを与えてくれる、目立たない小さな草花たちの集まりがあります。

多様性と可能性にみちた新しい、春。百花繚乱。

大きく変わっていく東京歯科大学のそれぞれの庭に、これからどんないろの花が咲いていくのでしょうか。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「雨に濡れるアメリカデイゴの花」

羽を広げて枝から飛び立った花が、風に吹かれて鮮やかな紅の絨毯をつくっています。

ひとつ一つの実の中に内包された多様性と自分さえもしらない可能性。いつか芽を出すことを信じて…。